

健診の上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）について

当院では、経口内視鏡検査、経鼻内視鏡検査の2種類の方法で検査を行っております。

のどの奥に触れると反射により吐き気や嘔吐（おうと）といった苦痛がみられます。のどに麻酔のゼリーを貯めてから飲み込んでいただいた後、麻酔薬の液をスプレーし、感覚をしびれさせ、反射をおさえて苦痛をやわらげます。

それでもなお苦痛な場合に、鎮静薬を注射することにより意識を低下させて緊張をやわらげ、苦痛を軽くする方法があります。多くは呼びかけに反応する程度の量を注射して検査を行います（意識下鎮静）。血圧が下がったり、呼吸が弱くなる危険がありますので、検査中モニターをつけ、検査後も意識がはっきりするまでは、しばらく休んでいただきます。これらの薬を使用する場合には、検査当日の自動車やバイク、自転車の運転を控えていただきます。

最近では細い内視鏡を鼻から挿入する経鼻内視鏡を施行することによって苦痛がやわらぎ、鎮静薬を使用しなくても楽に検査を受けられるかたも多くなっています。検査時間は約5分～10分です。

※鎮静剤は、検査時の緊張を和らげ検査を楽に受けられるようにするためですが、鎮静の効果は個人や体調により異なります。全く無感覚のまま検査が終了することをお約束するものではありません。

経口内視鏡・経鼻内視鏡・鎮静剤の利点と欠点

経口内視鏡

利点 解像度がよく、綺麗にみえます。（病気が見つけやすい。）

胃液の吸引や空気の調節がしやすく、観察がしやすい。

欠点 嘔吐反射が起き苦痛が生じやすい。（あまり苦痛がない方もいます。）

経鼻内視鏡

内視鏡を鼻から挿入して検査を行う方法です

利点 口から挿入する内視鏡に比べて嘔吐反射が少なく済みます。

会話が出来る。受診者の方の思いや状況を伝えられ、精神的な不安が軽くなります。

欠点 鼻の違和感や痛み、鼻出血などが生じることがあります。管が細いため、胃液を吸引したり、空気を調整する為の時間がかかります。

鎮静剤

※鎮静剤使用希望の方は予約が必要です。

人数に制限がありますので、当日お申し出の場合は使用希望に添えないことがあります。

利点 緊張が和らぎ、検査が受けやすくなります。

欠点 鎮静剤による副作用が出現するおそれがあります。

- ・呼吸の低下・血圧低下・覚醒の遅れ・覚醒後の再鎮静・注意力低下
 - ・反射運動能力低下（ふらつき・転倒）
 - ・静脈炎（針を刺した血管の周囲が赤く腫れ、痛みが生じること）等
- 検査中の画像をみることができない。

検査直後に医師から説明を受けた事を覚えていないことがある。

当日は車やバイク、自転車の運転や危険を伴う操作ができない。

使用できない方

- ・鎮静剤の使用で具合が悪くなった事がある方・重症筋無力症の方・急性閉塞隅角緑内障の方・重症の睡眠時無呼吸症候群の方・最高血圧が 90 未満の方・医師が不適当と判断した方

＜検査を受けていただく方への注意事項＞

検査前日

夕食は消化のよいものを午後 9 時までに済ませてください。

（午後検査の方は 24 時までに食事を済ませてください。）

水分（水・茶・色のついていないスポーツドリンク・経口補水液）は摂っていただいても結構です。

検査当日

朝食は摂らないでください

飲水（水のみ可）

お申込み・お問い合わせは、平日 12:00～17:00

Tel. 0980-84-3111（健診センター直通）

Fax. 0980-84-3093（健診センター直通）へご連絡下さい。